
ホットニュース(平成10年度／第11号)

●今月の業界ホットニュース／～「日本経済再生への戦略」から～

昨年12月に経済戦略会議が標記の中間とりまとめを行った。全5章のなかで第5章「21世紀への戦略的インフラ投資と公的・私的パートナーシップ」として、21世紀型のインフラ整備は、地域の自立性に根ざし、豊かで個性ある暮らしを実現すると同時に、産業競争力の向上を図ることにあるとしている。

即ち、地域や都市及びそれを構成する個々人が自立性を持ち、競争型社会のなかで活力に満ちて成長していく社会の創造が、日本経済再生への一つの戦略として位置付けられている。

これは現在我々が業務として取り組んでいる中心市街地活性化や都市活力再生に、そのまま繋がるキーワードである。標記とりまとめのなかでも、個々人が保護や規制から自立し、自己責任と自助努力のもとで自由な発想と創造性を発揮することで、自ら付加価値を高めることが活力と成長の源泉となると結ばれているが、それぞれの都市が自ら創意工夫によって、このような環境や社会システムを構築していくことが必要である。

●都市計画・交通計画の動向／～大型店と交通問題(その2)～

街づくりのための三法、「大規模小売店舗立地法(大店立地法)」、「中心市街地活性化法」、「改正都市計画法」による街づくりの推進に期待が高まっているなか、これまでの大店法に変わる大店立地法についても今年6月を目指して、運用の指針がまとめられつつある。

これらの流れを受け、都内だけでも荒川区、杉並区、豊島区、練馬区などが独自の環境要綱を設けており、大店立地法の枠組みが少しずつではあるが具体化してきている。その中でも交通計画に対する検討・配慮をよりきめ細かく行っていくことを求められているのが特徴的である。

そこで、開発の是非までも判断し、さらに良好な街づくりを支援していくためには、地区交通計画の考え方についても総合的かつ詳細に取り組んでいかなければならなくなってきている。特に、交通管理を含めたソフト的な側面を積極的に盛り込んでいかなければ、中心市街地など交通が集中する場所への立地が困難となり、中心市街地の再生を狙った活性化法の効果を薄めることにもなりかねない。

そのためには、官民の協力体制のもと、より効果的かつ実行力のある交通マネジメント方策を見いだしていくことが重要となり、それが街づくり3法の整合性を図っていくことに繋がるであろう。

●業務の紹介～都市計画を地で行く作業が目的の業務の紹介(中編)～

(続き)新幹線新駅周辺整備計画策定調査という名のこの業務は、学識者等からなる委員会が進められる。この委員会は従来のような単なる整備計画のオーソライズの場合ではない。計画への一定の合意を取り付けることを目的としているのである。構想から都市計画決定の手前までを6

回の委員会で決着つけようと言うのだから相り無茶がある。かといって個別対応では、協議する相手によっては求められる内容が異なったり縦割りや担当間の調整に手間取るなど、10年後の街開きにはとうてい間に合わない。したがって委員会以外つまり場外での根回しも重要となりコンサルには虚々実々の柔軟な対応が要求される。委員の方も大変である。委員会席上でのありがたい意見は、事務局にとっては計画を担保するための言質となるからである。計画に反対しない限り合意されたとみなされる可能性も高い。おもしろい委員会になることは間違いないが、市の事務局や担当するコンサルは大変であろう。

●技術開発・研究会の紹介/～「タウンモビリティと賑わいまちづくり」を出版～

「タウンモビリティと賑わいまちづくり

ー高齢社会のバリアフリーショッピング」学芸出版社、2,300円

(TM推進研究会編著・建設省大臣官房政策課兼福祉環境推進室協力) 弊社が事務局を努めた同書出版記念パーティが、先日盛況に開催された。

タウンモビリティとは、イギリスで普及している電動スクーターなどの貸出しシステムを、我が国に適した形で導入するための名称。高齢者や障害者を含めた全ての人々にモビリティを提供し、街を回遊する自由な楽しみや買物・娯楽・福祉などのサービスを楽しむための官民共働きのプログラムで、本書はその情報を初めてとりまとめている。

タウンモビリティは、1少ない投資で実現する簡単バリアフリー、2高齢者を歓迎する商店街づくり、3官民協調のボランティアなまちづくり、4環境にやさしい中心市街地のモビリティシステムなど、いくつかの切り口から期待されるシステムである。まだ第一号事業は誕生していないが、社会実験を通して各地で検討されている。新しいまちづくりやコミュニティ形成の一つの手法として、まちづくり、福祉、商業など、幅広い分野の方に、ぜひ導入の検討をお願いしたい。

さて、出版に協力頂いた方々のパーティでは、各分野で活躍されている多くの方々に色々な話をご披露頂いた。例えば、「超高齢社会のまちづくりに大切なのは「色気」だ」という提言は、都市計画分野の中だけの議論ではなかなか出てこない大切な方向性ではないだろうか。人々が楽しく充実して暮らしていくためのまちは、多様な人で考えていく必要がある。

アルメックホットニュース(平成112月15日発行)

////////////////////